

世田谷美術館コレクション選

器と絵筆——魯山人、ルソー、ボーシャンほか

Vessels and Brushes: Rosanjin, Rousseau, Bauchant, and Others

2021年1月5日（火）～2月28日（日）

世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

企画概要

日々愛され使われた器、今日を生きるため描かれた絵画。

「器と絵筆」展では、世田谷美術館のコレクションの柱をなす北大路魯山人の器と、アンリ・ルソーなど「素朴派」といわれる人々の作品を紹介します。

味わいぶかい魯山人の器は、作家を長年支援し、親交のあった世田谷の実業家・塩田岩治が妻サキとともに愛用した品々。すべて「塩田コレクション」としてご寄贈いただいたものです。ルソーやアンドレ・ボーシャンらによる、不思議に魅力的な素朴派の作品は、生きることと表現することの分かちがたい結びつきを示すものとして、当館の活動のシンボルにもなっています。本展では魯山人の陶磁器など約50件、フランス、東欧、アメリカ、日本などの素朴派絵画から約50点を精選。展示室の窓外に広がる自然も楽しみながら、日々創造的に生きることに思いをめぐらせる、またとない機会となるでしょう。



①北大路魯山人《椿文鉢》1940年頃 陶器 世田谷美術館蔵



②アンリ・ルソー《サン=ニコラ河岸から見たシテ島(夕暮れ)》

1887-88年頃 カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵

展覧会の構成

1、日々したしむ器 —— 塩田岩治・サキ夫妻が愛した、北大路魯山人の陶磁器

篆刻、書画、陶芸、また料亭のディレクションなどを自在に手がけた才人ながら、毀誉褒貶の激しかった北大路魯山人（1883-1959）。塩田岩治（1895-1983）はそんな作家を支援し、長年の交流をつうじて集めた器は、自ら繕って使い続けました。サキ夫人が慈しんだものは、手にしっくりなじむ心地よさを伝えています。夫妻が愛した器の、飾らぬ魅力をお楽しみください。



器の縁に、金継ぎがあります。欠けてしまった部分は、鉢の底に付着しています。はじめから欠けていたこの器を気に入った塩田岩治が自ら繕い、愛でました。

③北大路魯山人《染付葡萄文鉢》1941年 磁器
世田谷美術館蔵



当館所蔵の水注のうち、最も小ぶりなものが塩田サキのお気に入り。手の中にすっぽり収まるのがいいよ、と語ったと伝えられます。

④北大路魯山人《赤呉須水注》1927年 磁器 世田谷美術館蔵

2、今日も絵筆を手に——アンリ・ルソーと、素朴派の画家たちの多彩な世界

それぞれの人生において独学で表現を突きつめた人々が「素朴派」と名指されたのは、20世紀初頭のフランス。それまでの美術界の常識をくつがえし、刷新を願う画家や批評家の眼が、彼らを「発見」しました。本展ではアンリ・ルソー（1844-1910）の油彩画3点のほか、フランス、イタリア、クロアチア、日本、アメリカ、ハイチなどで生まれた、多彩な作品を紹介します。

アンリ・ルソーはフランス北西部のラヴァルに生まれ、パリの入市税関に勤めつつ、40歳頃から本格的に制作を開始。画家として立つべく、無審査のアンデパンダン展に出品を続けます。晩年、ドイツ出身の批評家・収集家ヴィルヘルム・ウーデや、パブロ・ピカソなど前衛的な芸術家たちに知られるように。ピカソは作品を購入、仲間と「ルソーを讃えるタペ」も開いています。なお本作は、額もルソー自身が制作したものです。

⑤アンリ・ルソー《フリュマンヌ・ピッシュの肖像》1893年頃
カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵



本展の楽しみ方

①窓外の自然を借景に、魯山人をゆったり味わう

「健康な建築」をめざした内井昭蔵の設計による当館は、美術館の内部と砦公園の自然が、大きな窓をとおして響きあうようつくられています。展示室も例外ではありません。扇形および長方形の展示室の一部では、借景とともに魯山人の器をご覧ください。冬から春へと向かう光のなか、作品をゆったり味わえることでしょう。



⑥大きな窓からの眺めが楽しめる世田谷美術館の展示室 撮影:奥村浩司



【左上】⑦北大路魯山人《雲錦大鉢》1940年 陶器 世田谷美術館蔵

【左下】⑧北大路魯山人《織部かすみ平鉢》1935-44年 陶器 世田谷美術館蔵

【右上】⑨北大路魯山人《色絵染付鮑形鉢》1935-44年 磁器 世田谷美術館蔵

② どう生きて、描いたのか。描き手それぞれの人生と表現を見つめる

どれも不思議な魅力をはなつ素朴派の絵画。描き手は、それぞれの人生の道行きで絵筆をとり、思いもよらず「発見」された人々です。どのような状況で描き始め、どのように見出されたのか。その背後にぼんやり透けて見える、彼らが生きた時代や社会のありようとは。生きることと表現することの分かちがたさを伝える、描き手たちの人生の物語を、作品に添えて紹介します。

⑩ アンドレ・ポーシャン《花咲く茂み》1943年 カンヴァス、油彩

世田谷美術館蔵 ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 E3962



アンドレ・ポーシャン(1873-1958)は、フランスのロワール地方に庭師の息子として生まれます。苗木屋を営みますが、第一次世界大戦で地中海方面に赴任、ギリシャ神話の舞台となった風景に魅入られます。帰還後、精神を病んだ妻と人里離れた家に移り、46歳で絵を描き始めました。ルソーに着目したウーデなどが関心を寄せ、知られるようになりました。

⑪ アンドレ・ポーシャン《地上の楽園》

1935年 カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 E3962

ルイ・ヴィヴァン(1861-1936)は、フランスのヴォージュ県に生まれ、工業学校でデザインと絵画を学びますが、郵便配達人の職を得て、20歳でパリに。働きながら細々と描き、62歳で退職した1923年頃から絵に専念。絵葉書などをもとに、パリの街の石畳やレンガなどの細部を丹念に描きました。ポーシャンと同じく、ウーデに注目され、脚光を浴びました。

⑫ ルイ・ヴィヴァン《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》

1925年 カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵





イヴァン・ゲネラリッチ(1914-1992)は、現クロアチアのポドラヴィーナ地方に生まれ、小学校を中退し農場で働きます。16歳頃から同地方の民衆画の技法であるガラス絵を始め、1931年、パリ帰りの若い進歩派の画家と展覧会に出品。大都市ザグレブで注目され、旧ユーゴスラヴィアの素朴派第一世代と呼ばれるようになりました。

⑬イヴァン・ゲネラリッチ

《ダブル・ポートレート》1964年

板ガラス、油彩 世田谷美術館蔵



久永強(1917-2004)は熊本の農家に生まれ、1931年に単身で旧満州に渡り、大連で時計店を営みます。1945年にソ連軍の捕虜となり、4年間のシベリア抑留後、帰国。仕事の傍ら音楽や絵画制作を楽しみますが、1987年、シベリア抑留を原体験にもつ画家・香月泰男の展覧会を見て、70歳で自らの抑留体験を描き始めます。東京での展示が大反響をよびました。

⑭久永強《お化け草》1993年 カンヴァス、油彩、世田谷美術館蔵

モリス・ハーシュフィールド(1872-1946)は、ロシア領ポーランドの小村に生まれ、18歳で渡米。ニューヨークの服飾工場で働き、後に室内履き製造工場を経営、引退後の1937年、65歳から絵を描き始めます。画商シドニー・ジャンスの目にとまり、ニューヨーク近代美術館が展示。米国に亡命したシュルレアリスムの文学者・批評家アンドレ・ブルトンも注目しました。

⑮モリス・ハーシュフィールド《母と子》1942年 カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵

ふれて、知る。ルソーなどの「触図」体験コーナー

当館では、視覚障害者の美術鑑賞の可能性について国内外の事例に学ぶ講演会「ミュージアム・セッション」を長らく開催してきました。近年は、コレクションの絵画作品の触図(手でふれて読み解く図)の制作を試みています。アンリ・ルソー《フリュマンス・ビッシュの肖像》などの触図を、会場出口で体験していただけます。※手指消毒液を常備しています。

触図制作：NPO 法人視覚障害者芸術活動推進委員会

おうちで100円ワークショップ!

ルソー人形など、おうちで作れる簡単で本格的な工作キットを販売。
日時：会期中の毎週土曜日 午後1時～午後4時 会場：地下創作室
キット代：各100円(ご購入はおひとり各種1セットまで)



開催要項 ※オープニング・レセプションはございません。

展覧会名：世田谷美術館コレクション選「器と絵筆——魯山人、ルソー、ポーシャンほか」展

会期：2021年1月5日（火）～2月28日（日）

会場：世田谷美術館1階展示室

開館時間：午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）

休館日：毎週月曜日（ただし1月11日（月・祝）は開館、翌1月12日（火）は休館）

観覧料：一般500（400）円、65歳以上400（300）円、大高生400（300）円、中小生300（200）円

※（ ）内は20名以上の団体料金。※障害者の方は300円。ただし小中高大生の障害者は無料。介助者（当該障害者1名につき1名）は無料。※リピーター割引＝会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金にてご覧いただけます。

主催：世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団）

後援：世田谷区、世田谷区教育委員会



⑯アンドレ・ポーシャン《写真屋でのジェルメース》

1924年 カンヴァス、油彩 世田谷美術館蔵

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2020 E3962

同時開催展

ミュージアム コレクションⅢ「美術家たちの沿線物語 田園都市線・世田谷線篇」

2020年12月19日（土）～2021年3月28日（日）

次回企画展

「アイノとアルヴァ 二人のアアルトーフィンランド 建築・デザインの神話」

2021年3月20日（土・祝）～6月20日（日）

世田谷美術館 YouTube 展覧会やパフォーマンス、講座「美術大学」など多彩な活動を配信中！



世田谷美術館 SETAGAYA ART MUSEUM

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2 Tel. 03-3415-6011（代）

<https://www.setagayaartmuseum.or.jp>

展覧会のご案内：050-5541-8600（ハローダイヤル）

- ・東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、もしくは美術館行バス①「美術館」下車徒歩3分
- ・小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス②「砧町」下車徒歩10分
- ・小田急線「千歳船橋」駅から、田園調布駅行バス③「美術館入口」下車徒歩5分
- ・来館者専用駐車場（60台、無料）：東名高速道路高架下、厚木方面側道 400m 先。美術館まで徒歩 5 分

